

\\ イベントレポート //

## 「学校の荷物重い問題は解決された？ ラン活最新事情と新たな選択肢・布製ランドセルとは？」

1,200組親子に聞いた最新ランドセル意識調査を公開  
ゲスト：大正大学教授・白土健氏（子どもに関する消費行動を研究）



フットマーク株式会社(本社：東京都墨田区、代表取締役社長：三瓶 芳)は、4月10日（水）にプレス向けイベント「学校の荷物重い問題は解決された？ラン活最新事情と新たな選択肢・布製ランドセルとは？」を開催いたしました。

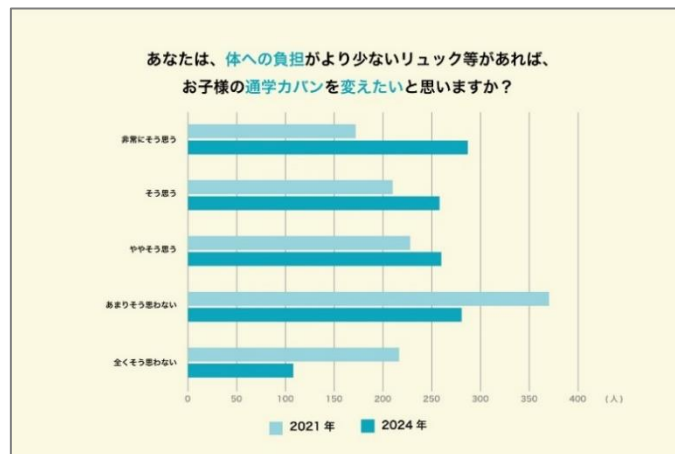
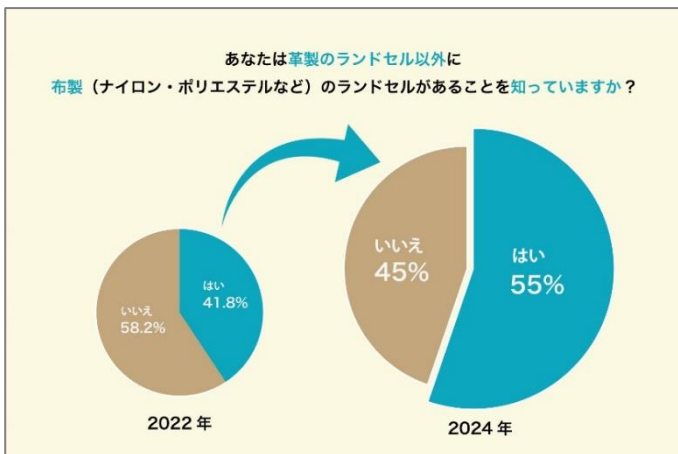
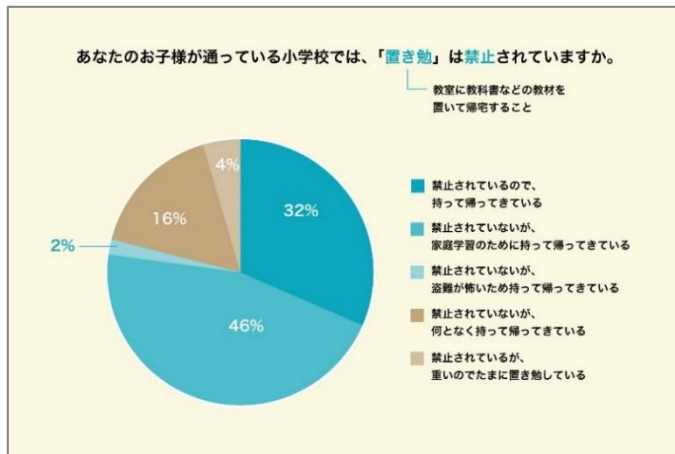
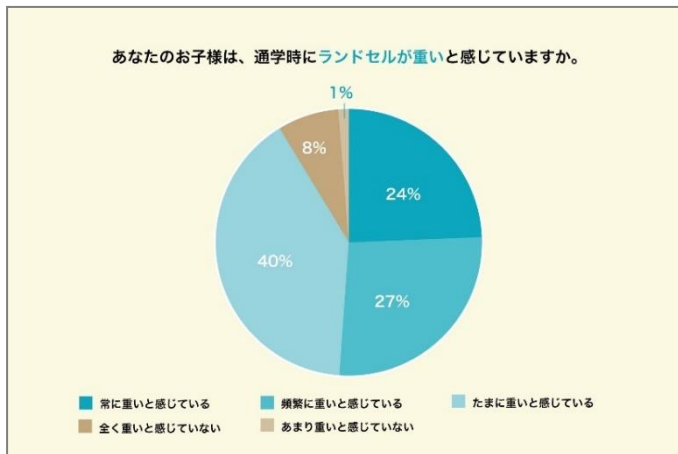
ゲストに大正大学副学長 地域創生学部地域創生学科教授 白土 健 氏を招き、2024年3月に実施した小学校1～3年生の子とその親1,200人に聞いたランドセル意識調査の結果もお伝えしながら、近年社会的な問題にも挙げられる「ランドセルが重たい問題」について考えていきました。

### ■2024年実施 最新版「ランドセル意識調査」を発表

#### 【調査サマリー】

- ① 小学生の約9割がランドセルが重いと実感。ランドセルの平均の重さは4.13kgで昨年より微減  
小学生の91.4%が「ランドセルが重い」と感じていると回答。保護者の87%もランドセルが重すぎるのではないかと感じていることが分かりました。ランドセルの平均の重さは4.13kgで、昨年度の4.28kgより微減。
- ② 3人に1人が通学時に肩や腰・背中など身体の痛みを訴えた経験がある  
ランドセルが重いと感じている小学生のうち、3人に1人が通学を嫌がった経験があり、通学時に肩や腰・背中など身体の痛みを訴えたことがあり「ランドセル症候群」が懸念される結果となりました。
- ③ 置き勉禁止は減少傾向。しかし置き勉は禁止されていないけれど、持ち帰りしている子どもは64%  
置き勉禁止については前回の41.7%に比べ31.5%と減少傾向ですが、禁止はされていないけれど持ち帰りをしている子どもは64%。主な理由は「家庭学習のため」「何となく持って帰ってきている」が上位に上がりました。
- ④ 体に負担の少ないカバンに買い替えを検討したい親はほぼ横ばいで64.4%  
前回の64.5%からほぼ横ばいの64.4%の親がより体に負担の少ないカバンがあれば買い替えを検討したいと回答。革製以外のランドセルの存在を認知している親も前回41.8%から55.2%にアップ。ランドセルの選びの多様性が感じられる結果となりました。

## 調査結果グラフ（一部抜粋）

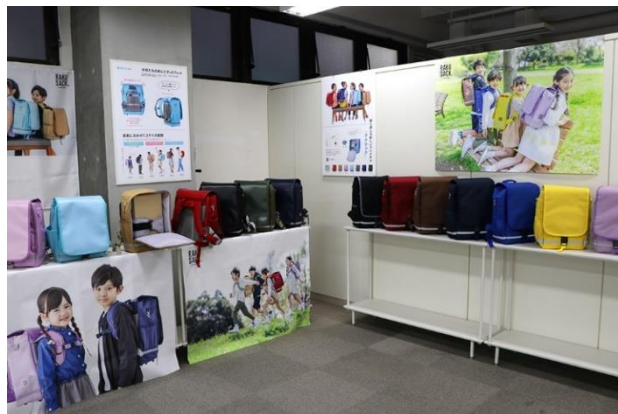


### <白土先生のコメント>

「ランドセルの平均の重さが微減しており、徐々に置き勉が推奨されていることが推測されます。しかし重さは減っているものの、9割近いお子様が重さを感じているというのが現状で、引き続き実態にそって解決策を見出していくことが重要です。ランドセル＝革製という考え方以外にも多様な選択肢が生まれてきていることは良い傾向です。今後も児童と保護者が数ある製品の中から、好みのものを選択でき、相棒のランドセルを背負い楽しく登校できる良い時代がますます広がっていくと推察します」※調査についての詳細は参考資料にて添付

### ■商品展示・体験コーナー

子どもが背負っているランドセルの重さ平均 4.13kg を大人が背負ってみたら…という体験コーナーを設置。ご来場の皆様に背負い体験をしていただきました。



設定された重さは約 14kg。これは小学校 1 年生女子（平均身長 120cm・体重 21.5kg）で 4.13kg を背負っている場合、成人男性（身長 180cm・体重 71.3kg）に換算した重さです。体験いただいた方からは、「重すぎる」「想像していたより何倍も重い」との声が聞かれました。

## ■2020年より開発「ラクサックジュニア」の開発背景



### 自在にまとめる『ブックストラップ』

(商標登録済/特許第 6793435 号・2020 年 11 月登録)

独自開発のブックストラップ（教科書固定ベルト）で厚みの違う教科書を簡単に区別し整理。重い荷物を背中側に密着させ荷物の揺れを防ぎ、身体への負担を最小限に抑えます。

フットマークで2020年より身体への負担を軽減する機能や工夫を追求した通学カバンブランド「RAKUSACK® JUNIOR(以下、ラクサックジュニア)」の開発背景を開発担当者がお話しました。開発のきっかけは開発者自身の子どものラン活を通じ、ランドセルの重さに気付いたことからです。

その後2022年に発売した「RAKUSACK® JUNIOR PLUS(以下、ラクサックジュニアプラス)」は、かぶせフタを合皮にすることでより革製のランドセルの見た目に近い仕様にしました。

ラクサックシリーズは、これまで成長に合わせ買い替えができるように小サイズと大サイズの2サイズで展開しておりましたが、ラクサックジュニアプラスでは新たに「100サイズ」モデルも追加。従来品では大きすぎてサイズが合わない」というお客様の声に応えました。

カバン本体は小サイズと同じ容量でありながら既存サイズより小さめの仕様で、身長95cmから120cmまでの小柄なお子様に向け新たに規格を見直しています。

身体合ったカバンを選ぶ（密着性を高める）ことで、成長期の身体により負担がかかりにくくなることを目的としています。この身長によってサイズを変えていくことを推奨しているのはラクサックジュニアシリーズだけの特徴です。

## ■2020年より無料貸出サービスを開始。利用者の約半数がそのまま購入へ

体験して機能を実感していただくために、2020年より1週間の無料貸出サービスを開始。利用者の約半数がそのまま購入しています。革のランドセルを購入したものの、いざ学校へ登校してみると重くて体が痛い子どもが訴えてくる、といった悩みを抱えての申し込みも多くあります。利用者からは実際に使用してみた感想や改善要望を多くいただき、ラクサックシリーズはこのお客様の声に支えられ、進化しています。

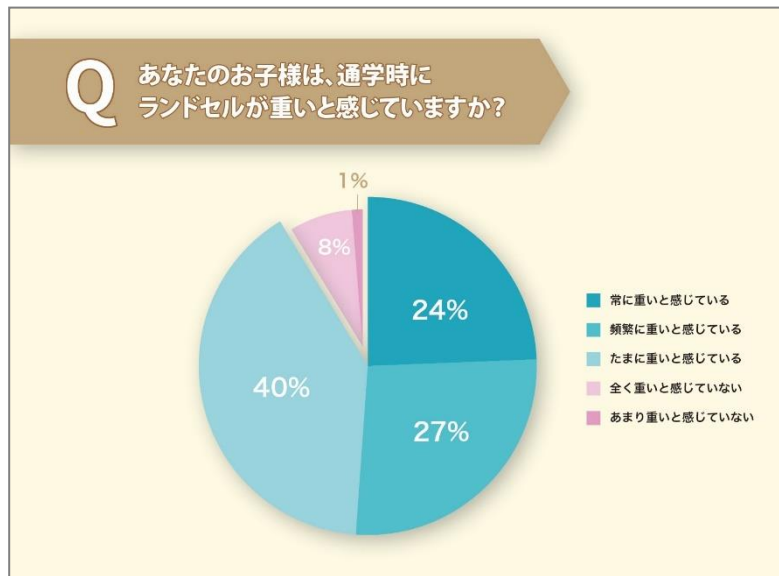
ラクサックシリーズは2020年に発売し、その先駆けとしてお客様の声に耳を傾けながら改良を重ねてきました。

これからも様々なお子様に楽しい通学を提供できるよう、細やかな配慮を含めた提案をしていきたいと考えています。

□ 本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先 □

フットマーク株式会社・広報室/TEL 03-3846-3382 e-mail [webmaster@footmark.co.jp](mailto:webmaster@footmark.co.jp)

担当/吉河：070-8821-3911 飯田：070-2480-7413



【調査概要】

タイトル：2023年度ランドセルに関する意識調査  
調査対象：通学にランドセルを使用している小学校1～3年生とその親 1,200組  
調査期間：2024年3月15日～21日  
調査方法：インターネットによる調査（クロスマーケティング）  
調査地域：全国  
実施機関：フットマーク株式会社

【調査サマリー】

- ⑤ 小学生の約9割がランドセルが重いと実感。ランドセルの平均の重さは4.13kgで昨年より微減  
小学生の91.4%が「ランドセルが重い」と感じていると回答。保護者の87%もランドセルが重すぎるのではないかと感じていることが分かりました。ランドセルの平均の重さは4.13kgで、昨年度の4.28kgより微減。
- ⑥ 3人に1人が通学時に肩や腰・背中など身体の痛みを訴えた経験がある  
ランドセルが重いと感じている小学生のうち、3人に1人が通学を嫌がった経験があり、通学時に肩や腰・背中など身体の痛みを訴えたことがあり「ランドセル症候群」が懸念される結果となりました。
- ⑦ 置き勉禁止は減少傾向。しかし置き勉は禁止されていないけれど、持ち帰りしている子どもは64%  
置き勉の禁止については前回の41.7%に比べ31.5%と減少傾向ですが、禁止はされていないけれど持ち帰りをしている子どもは64%。主な理由は「家庭学習のため」「何となく持って帰ってきている」が上位に上がりました。
- ⑧ 体に負担の少ないカバンに買い替えを検討したい親はほぼ横ばいで64.4%  
前回の64.5%からほぼ横ばいの64.4%の親がより体に負担の少ないカバンがあれば買い替えを検討したいと回答。革製以外のランドセルの存在を認知している親も前回41.8%から55.2%にアップ。ランドセルの選びの多様性が感じられる結果となりました。

■重さ問題：ランドセルの平均の重さは減少しているものの、タブレット・PCの持ち運びで新たな負担増

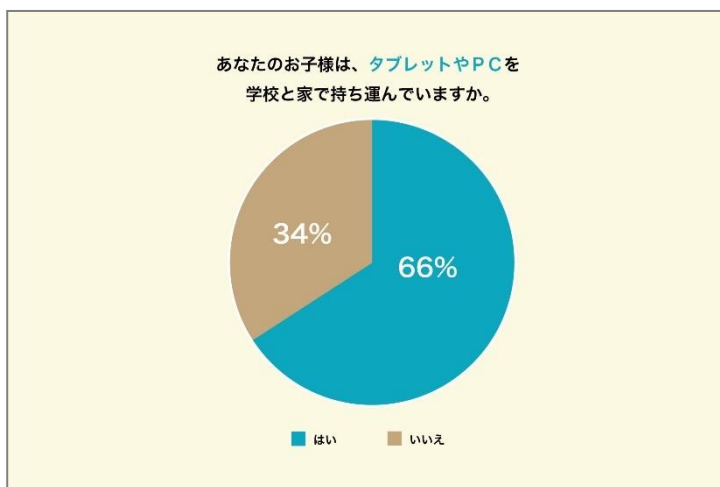
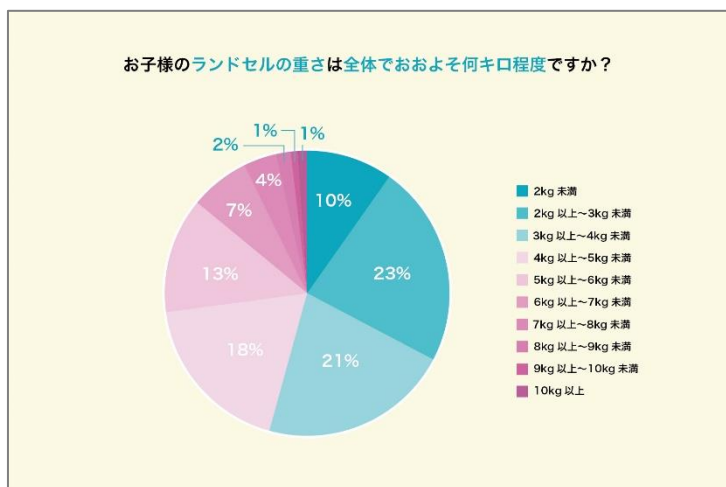
昨年の調査よりランドセルの平均の重さは4.28kgから4.13kgに微減。白土先生はこの要因について「徐々に置き勉が推奨されてきていることが大きいと推測される」とコメント。

パソコンやタブレット端末に文字や画像を表示して使う「デジタル教科書」の導入が、2024年から学校現場で本格導入される予定ですが、当面は紙との併用が望ましいとの見解を文部科学省は発表しています。調査の回答からもタブレットやPCと紙の教科書を併用している子どもは8割を超えており、さらには65.8%が持ち運びをしている結果でした。またコロナ禍

や昨今の熱中症対策の一環で「水筒を持参している」子どもも一定数いることがわかりました。

荷物の重さに大きく影響しているのが「置き勉」の可否ですが、禁止されている子どもは32%。しかし禁止されていないが、「家庭学習のため」「何となく持って帰ってきている」が62.1%ででした。

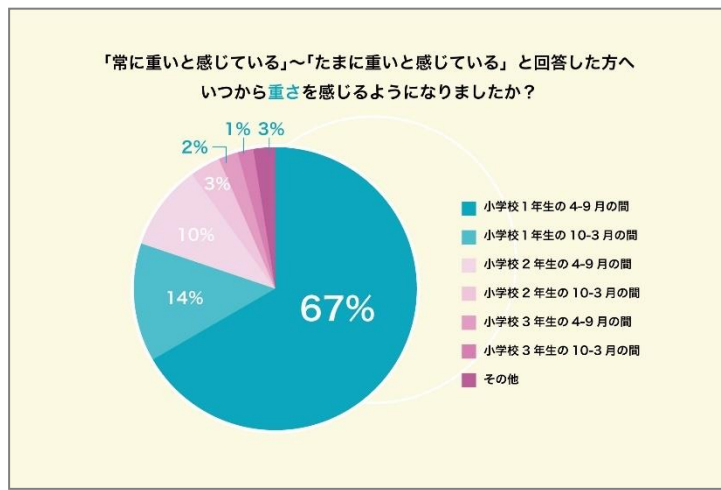
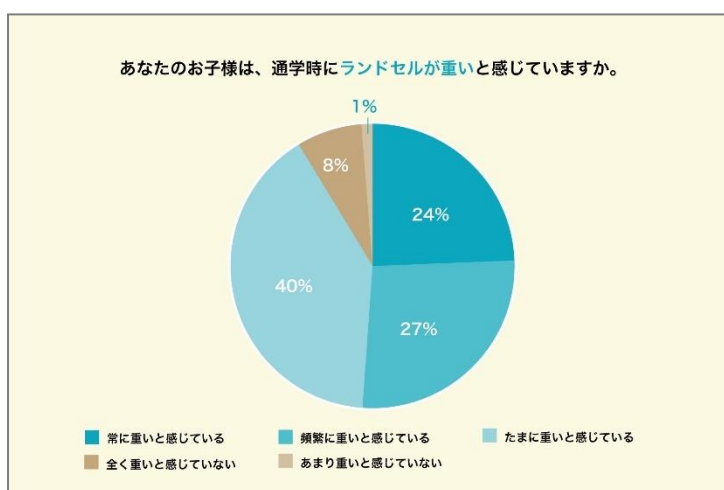
さらに毎日の荷物では「時間割の教科以外の荷物を持ち運んでいる」も子どももおり、白土先生は「児童は忘れ物をしないために全ての教科に対応出来るよう、(時間割に関係なく)全教科分を詰め込んでいる。保護者は一緒に時間割を見て、該当科目のみをランドセルに入れる事を提唱したい。」とコメントされました。



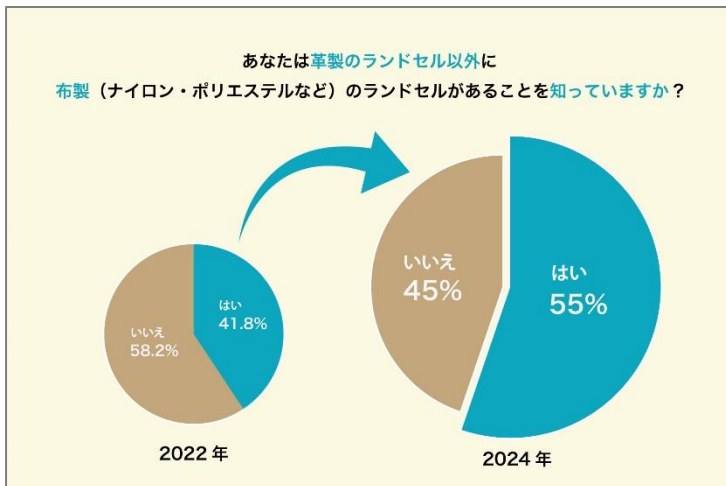
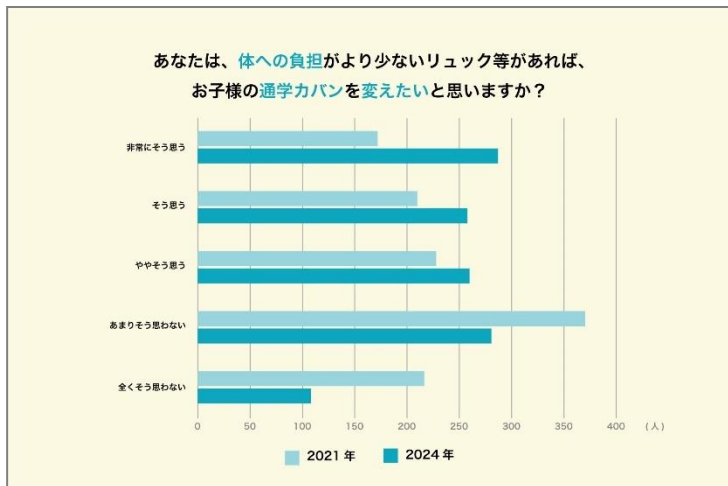
## ■体への負担問題：小学生の9割が「ランドセルが重い」と回答。小学生の3人に1人が実感する「通学ブルー」＋「身体の痛み」

今回の調査でランドセルが重いと回答したのは91.4%。うち3kg以上の荷物を背負う小学生は67%で、このまま荷物を背負って登校を続けると「ランドセル症候群」に陥る可能性があることが判明しました。ただランドセルの重さや痛みを訴える子ども、重たいことにより学校に行きたくないと感じる子どもの数は2022年と比較するといずれも減少傾向でした。これについて白土先生は「たしかに数字的には減っていますが、低学年時は生まれ月によって体格差が大きいいため、軽くなったとは言え、苦痛を訴える児童は存在します。引き続き現場の実態にそって解決策を見出していくことが重要」とコメントしました。

また荷物が重いと気づいたのは「小学校1年生の4月~9月時」が66.7%と最も多く、「購入時は上り坂も、降雨も想定しない上、ランドセルの中身は空の状態、入学後に愕然とするケースが多く見られます」と推察しました。



## ■ランドセルの選択肢多様化：より体への負担が少ない通学カバンへの買い替え意向は2021年と比較し13.4%増



今回の調査では64.4%の親子が「身体に負担の少ないカバンがあるなら買い替えを検討したい」と回答。2年前と比較すると13.4%増えていることが分かりました。また「革製のランドセル以外にナイロン製・ポリエステル製のランドセルがあることを知っている」親は55.2%で、前回の41.8%から13.4%増。実際に買い替えを検討した親は調査開始時と比較すると2.3倍増という結果でした。白土先生は「布製のランドセルは、経済的で丈夫でデザインも優れ、機能的である事、カラーバリエーションの豊富さなどが選択される要因と考えます。一番は人と違ったものでも許容されるようになった時代背景も大きいと思います」との見解を述べました。

最近では自治体が新一年生に軽量カバンを提供するケースも見られます。「背景にはランドセルの購入価格の高額化も影響のひとつであると考えられます。購入価格は平均5～6万円未満が24.1%、6～7万円未満が22.5%と大きな割合を占めており、ランドセルは大変高価な存在であることが分かります。それにより格差の象徴となりえる懸念もあります。」と白土先生はコメント。

最後に「ランドセル＝革製という考え方以外にも多様な選択肢が生まれてきていることは良い傾向です。今後も児童と保護者が数ある製品の中から、好みのものを選択でき、相棒のランドセルを背負い楽しく登校できる良い時代がますます広がっていくと推察します」とコメントしました。

※ランドセル症候群とは…自分の身体に合わない重さや大きさのランドセルを背負ったまま長時間通学することによるココロとカラダの不調を表す言葉です。具体的には、小さな体で3kg以上の重さがある通学カバンを背負いながら通学することによる筋肉痛や肩こり、腰痛などの身体異常だけではなく、通学自体が憂鬱に感じるなど気持ちの面にまで影響を及ぼす状態です。(2021年に大正大学・白土健教授、たかの整形外科 院長・高野勇人先生が提唱)

□ 本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先 □

フットマーク株式会社・広報室/TEL 03-3846-3382 e-mail [webmaster@footmark.co.jp](mailto:webmaster@footmark.co.jp)

担当/吉河：070-8821-3911 飯田：070-2480-7413